

## 不定愁訴症候群とライフスタイルの母子相関に関する疫学的研究

○ 大澤清二\* 平山素子\* 下田敦子\* 笠井直美\*\*

(\*大妻女大, \*\*新潟大)

近年の小児のライフスタイルは増々夜型化しており、ついに高校では就寝時刻の平均が0時を超えた。このことと密接に関係して他のライフスタイル諸要因の変容に伴う自律神経系の不安定に帰因した不定愁訴症候群を訴える小児が高い頻度で観察される。しかし、これらの不定愁訴は特定の独立した疾患ではなく死亡に至る危険性もないために、医学的には関心も低く今日に至っているが、その高い頻度は社会的にも教育的にも重要な問題となりつつある。演者らが行った全国規模の母親とOD児の相互関係についての調査では、高い相互関係が見出されており、25%~30%のOD児の母親もODと同じ愁訴・症状をもつことが判明した。ODは同一の家族内に非常に高いリスク（通常での陽性率の5倍以上）で発生することが推測される。従って、ODの背景となるライフスタイルが同一家族で高い確率で類似、共通していることや、親の養育態度や躾の仕方が子供の心身の状態やライフスタイルに影響していると考えられる。本研究においては、不定愁訴を単に生物学的・生理学的にのみ理解するのではなく、人間関係をはじめとする小児をとりまく社会環境、特に家族環境との関係を疫学的に追求している。